



全国障害者スポーツ大会について（平成 20 年 9 月定例会）

2011 年開催される「全国障害者スポーツ大会 おいでませ！山口大会」には、選手 3500 人、監督コーチ等 2400 人の参加があります。（肢体障害約 700 人、視覚聴覚障害が約 600 人、他にも知的障害や精神障害など）

県では、宿泊施設のバリアフリー化を促進しておられますが、事業者の経営が厳しいことなどから、進んでいないようです。大会だけで考えると負担が重いことから、障害者が使いやすい宿泊施設として観光面も含めた取組も考えてはいかかでしょうか。

障害のあるアスリートの皆さんに、心おきなく競技に専念していただくためには、ゆっくり休めるベッド、ゆったりと汗を流せるお風呂、誰にも気兼ねなく自分で行くことのできるトイレ、この 3 つの確保が求められる。

3 年後に迫った全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、宿泊施設のバリアフリー化を今後、どのように進めようとされているのでしょうか。

【国体・障害者スポーツ大会局長】

現在、競技会場地の宿泊施設について、大会での客室提供見込みやバリアフリーの現況などの調査を行っております。

今後、この調査結果を踏まえ、旅館組合などの協力を得ながら、必要な宿泊施設の確保と環境整備に努めることといたしております。

バリアフリーに対応した宿泊施設の不足も見込まれることから、引き続き、民間宿泊施設のバリアフリー化を促進するとともに、宿泊支援用具の配置、仮設のスロープや点字用具の設置など、効率的で実効性のあるバリアフリー化対策を実施することといたしております。

県といたしましては、大会に参加する選手が快適に宿泊できるよう、関係団体、関係機関などの協力を得て、宿泊環境の整備に全力で取り組んでまいります。